子どもの「遊び」について考えよう②

平成13年度の都留市の「ふるさと市民カレンダー」は、平成10年度の市民委員会「子どもの遊び研究委員会」からの提言にありました「孫・子に伝えたい遊びのいろいろ」の中より13種類の遊びを選び、挿絵にしています。

表紙には、佐藤顕彦氏が描いた“おしくらまんじゅう”の風景をバックにして、次のような文言が書かれています。

やさしさにつつまれたあの頃の遊びを思い出してください。

そして、子どもたちに伝えていくことの大切さを、ふるさとに遊びのある風景を・・・

あの頃の思ひ出

春…うららかな田原神社の境内でみんな揃ってはないちもんめ

夏…まぶしい太陽とあふれる緑の中で元気にかけまわりながら水てっぽう

秋…色づき始めた草原で高い空に向かって飛ばした竹とんぼ

冬…あたたかな炬燵にぬくもりながら時間のたつのも忘れてお母さんと遊んだあやとり

—都留ふるさと物語より—

先月は、子どもたちが、群れて遊ぶことによって、どのようなことを学ぶのか考えました。

今月は、子どもたちの遊びを、家庭や地域でどのように指導したらよいのかについて考えたいと思います。

今の子どもたちは、物質的には大変恵まれた中で日常生活を送っています。しかし、その反面、ともすれば現状に甘んじ、趣味や軽スポーツといった安易な身近なことにしか関心を持たない傾向が強く、公共心や自己鍛錬、ボランティア精神などが稀薄であると言われています。

一方、子どもたちは、遊びという生活体験を通じて様々な知識を得、創造力を養いながら社会に適応する能力を身につけ、将来の社会生活に必要な事柄の基礎を築いていくのです。特に、伝承遊びは、昔からの人間生活とのかかわりの中で、子どもたちが一人前の社会人となるのに必要な知恵と体力を無意識のうちに体得するような機能を持っています。

そこで、伝承遊びを中心に、家庭や地域社会における遊びの指導について考えてみたいと思います。

家庭では

核家族化、少子化など、家庭環境の変化に伴って、親子の会話不足や家庭教育の機能の低下が指摘されています。また、最近の子どもたちが遊びを知らないとか、遊べないとかいう指摘もあります。でも、遊ぶ時間、遊ぶ場所、遊ぶ仲間といった条件が揃えば、昔のようにガキ大将が生まれ、遊びが戻ってくるかもしれません。

家庭の中で、伝承遊びを取り入れることのできる場面として、食後のだんらん、誕生会、お盆やお正月、土・日曜日、夏休みなどの長期休業などが考えられます。それぞれの家庭の実情に合った伝承遊びを通して、祖父母、父母、子どもの三世代間のふれあいの機会をつくって欲しいと思います。

食後のだんらんの一時に、テレビを離れ、一日の生活の様子を家族で話し合いながらできる伝承遊びとして、お手玉類、あやとり、カルタやトランプ、百人一首などがあります。

例えば、あやとりは、男女や年齢に比較的こだわらなくてもよく、また、カルタや百人一首はその遊びを通して、日本古来の文芸に接することにもなります。そのほか、誕生日に子どもへのプレゼントとして、折り紙や千代紙などの作り方を教えてやることも一案です。創作の喜びを育てながら、和やかな一家だんらんの雰囲気を生み出すことにも役立つと思います。

このように、創造力や表現力などの感性が失われつつある今日、あやとり、お手玉、おはじきといった子どもの遊びが、情緒の発達に果たしてきた役割の重要さを今一度考えてみることも大切です。

さらに、夏休みなどの長期休業の期間には、地域の大人たちとの交流を通して昔のいろいろなお話を聞きながら、竹馬作りなどに取り組んでみることもよいのではないでしょうか。

また、山野や河原を散歩したり、駆け回ったり、探検ごっこをしたりして自然に接する機会をつくり、その中で竹とんぼ作りをしたり、タコあげをしたり、草笛を覚えたりしてみたいと思います。

地域社会では

伝統的な地縁社会が崩壊しつつあるとき、人々の連帯感や人間的なふれあいが薄れ、広場や空き地で歓声をあげて遊び戯れる子どもたちの姿が少なくなり、家庭の中でテレビゲームなどに熱中する子どもが増えています。子どもたちが遊びの中で求めている「仲間」「場所」について、地域でできることを少しでも実行に移していきたいものです。

子どもたちが土・日曜日に、地域での伝承遊びの場面や工夫の仕方を考えてみましょう。

まず、地域の大人たちの指導を受けながら、竹馬作り、タコ作りをしましょう。

特に、竹馬に乗ると、子どもたちは、初めて大人を見下ろすような背の高さになる体験をします。子どもたちにとっては、そんな気分がたまらなくうれしいに違いありません。

また、地域の老人会などの指導により、わらぞうりや水鉄砲など、失われようとしている手作りの遊びに取り組みながら、昔の人たちの知恵や技術を学びましょう。

さらに、地域の異年齢集団で組織する子どもクラブ活動などの中で、定期的に伝承遊びの指導をするような計画も考えてみたいと思います。

冬の間の日当りの良い所では、ひなたぼっこをしながら、やがて、家の塀などに体を押しつけあって、おしくらまんじゅうをします。この遊びは、厳冬の中で防寒具のない子どもたちが考えた身も心も暖かくなる遊びです。

異年齢集団の子どもたちが、「おしくらまんじゅう、おされてなくな」と顔をゆがめながらも元気に叫んでいます。大人も中に入ってみてはいかがでしょうか。

伝承遊びを伝えていくために大切なことは、まず、大人がたくさんの伝承遊びを知り、そして、大人自身子どもたちと一緒に楽しむゆとりを持つことです。地域社会の様々な活動の中に、伝承遊びを取り入れることによって、子どもたちの心にふれながら、地域社会の教育力を一層高めていきたいものです。そんなふれあいの中に育った子どもたちが、やがて次の時代の担い手になっていくのです。

提供

学校週五日制時代を考える会

※「孫・子に伝えたい遊び」27種を図解した資料を欲しい方はお申し出ください。

☎(43)4416 川上